

令和2年度 社会福祉法人白鳩会事業報告

新年度早々、新型コロナウイルス感染症拡大により全国で緊急事態宣言が発出され、保育施設においても保護者に対して「可能な限りの登園自粛」が要請されました。

それにより、各園においては約2か月間当園児童数が著しく少なくなり活気のない毎日が続き、緊急事態解除後も元通りには戻らず、保育環境や保育内容の再考、園行事の中止や縮小を余儀なくされましたが、いつもと違う状況になったからこそ考えることができた事柄も多々ありました。

また、園から罹患者を出し臨時休園を避けるため、職員は連日園内の消毒作業にあたり感染予防に努めました。

登園自粛要請期間中の園児数は大幅に減りましたが、行政より原則開園を義務付けられたことにより運営費の減額はなく法人・施設の経済的な支障が生じなかったことや感染予防対策に関する補助金を支給していただけたことは行政機関に感謝しなければならないと思います。

人材については、新たな職員を確保することは相変わらず容易ではなかったものの、当年度は運営する各施設において軒並み退職者が少なく、また、施設により差異はあるものの応募についても例年に比べて多いという結果でした。

要因の一つとしては、就職フェアへの出展回数を増やしたこと、保育士人材に特化した求人広告を法人全体で掲載したこと、採用動画を製作し you tube を利用して発信などの取り組みも功を奏したと分析しています。

今後も職員採用に苦勞することが現実的な予測できるため、採用人事に困らないように離職者の抑制のための方策を全施設挙げて取り組む具体的な動きを進めます。

各施設、運営内容を精査し施設経営に取り組んだ結果として、前年度に比べると収支の差額も改善し、今後の設備整備や人材に使うための財源を少しでも留保することができました。

ただ、運営受託施設（山王、浜竹、生石、平井）以外はこの先段階的に設備の修繕や買い替えが必要となるため、予算の執行を計画的に実施します。

当年度は白鳩チルドレンセンター八雲中において全館の空調設備入替工事（約3200万円）、あやの台保育園において大型遊具の入れ替え工事（約1200万円）を理事会承認を経て実施しました。

保育内容向上への取り組みについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により研修が対面からオンライン方式に変わり、園内で多数の職員で受講でき、リアルタイムで職員間で内容を共有できたためこれまでにない利点でした。今後もこのような機会を利用して質の向上に努めます。

保育の自己評価のガイドラインが2020年度に改訂されたため、白鳩チルドレンセンター東大阪にて他施設よりも先行して研修の受講、運用を始めました。今後は専任の講師を法人に招聘して法人全体で令和3年度に取り組みます。保育の自己評価から組織の底上げにつなげ保育の質の向上に努めます。